
ガッコのせんせ

一河善知鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガッコのせんせ

【Nコード】

N8304B

【作者名】

一河善知鳥

【あらすじ】

エッセイです。学校の先生だからといってすべてが完璧ではないのは当たり前だけど、いつもいつも失敗ばかりの先生もちょっと珍しい。

「おーはしせんせ」は「大橋先生」というよりも「おーはしせんせ」という感じの人だった。教師で大人のくせして、そそっかしくて物忘れが激しかった。

ある日の授業中、先生は一本しかない白のチョークを器用に手元に一センチだけ残して、ばきつと折ってしまった。床を転がっていく五センチほどのまだ書きやすいチョークを慌てて追うもんだから、自らの足を自ら引つ掛けて、そのチョークを粉々にしてしまう。先生は赤で続きを書こうか、生徒であるわたしたちをちらちらと気にしながら、「じしゅー！」と言って職員室に駆けてゆくのだった。またある日は国語の授業の始まりのチャイムがなったと同時に先生がでつかい三角定規と算数の教科書を持って、なんの疑問も持たずに入ってきた。「きりーつ、礼！」と学級委員が言っても、先生はにこにこ気づいていない様子。やがて教室がざわざわして、初めて先生は国語の授業だったと気づく。そしてやっぱり「じしゅー！」と言って職員室に駆けてゆくのだった。

むろん、小学生が自習と言われて真面目に勉強をする人はいない。あの学級委員でさえ、やったと小さくガッツポーズだ。だからわたしたちは先生が失敗するのがむしろ嬉しくて先生のこと大好きだった。

そんな「おーはしせんせ」が一度、給食のない、お弁当の日わたしの学校では年に数回不定期にある。の前日に連絡をし忘れてしまったことがあった。先生はその日の夜にそのことを思い出したらしく、出席番号が真ん中の辺りにいるわたしの家には十時頃に電話がかかってきた。わたしはひやつとした。普段からそそっかしいこととお母さんたちに広まっているから、この機会に先生が怒られてしまうんじゃないかと思ったのだ。事実、「まったくもう！」と言ってお母さんは少し苛々しながら冷蔵庫を覗いていた。

だけどやっぱりお母さんはお母さんだから翌日の朝は美味しそうなお弁当を作ったわたしに持たせてくれた。

先生はお弁当の時間に「ほんとにごめん！」といつになく真剣にみんなの前で謝った。今にしてみれば先生はわたしではなくわたしたちを介して親に謝っていたのだろうけど、お弁当を忘れる人はいなくてみんなは笑顔だった。

家に帰ってその話をお母さんしてみると、お母さんは意外にも怒ったりはせずに、ただ「いい先生なんだね」と言った。そのときはよく意味がわからなかったけど、つまりはいつも間違えれば謝るといふ当たり前のことができる先生をお母さんはわたしの担任でよかったと思っっているらしかった。

「失敗は誰にでもあるから」

もしお母さんが先生に怒っていたら、そう言おうと思っていたけれど、それすらもお母さんには見透かされていたのかもしれない。

それから何年も経ってしまった今も、風の噂で先生はまだ先生をやっていると聞く。今もきつと変わらず生徒に愛される「おーはしせんせ」なんだろうな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8304b/>

ガッコのせんせ

2010年10月9日21時03分発行